

未来につながる、提案型の質問を心がけました。

実際のやりとりとは別に、議会の一般質問の中で提案した内容をご報告致します。

1.人口減少対策について

合計特殊出生率が2.81と日本一の岡山県の奈義町^{※1}の取り組みを取り入れてはと提案いたしました。

※1 奈義町子育て応援宣言 等

2.高等教育の在り方について (IPU短期大学部 撤退対策)

愛媛の南予地域で唯一の高等教育機関であるIPU短期大学を、今後、市はどう応援をしていくのでしょうか。2年間は収支差額を補てんすることですんだとしても、創志学園から市が中心の組織に(まずは私立)設置者の変更がなされると市の責任はさらに増大します。どのような大学として存続させようとしているのでしょうか。

また、その先にある、「公立化」する意義は何でしょうか。債務負担行為として、2年間で1億6千万円(収支差額補てん)の予算案を提出するこの議会でそれらが示されないことに違和感を感じます。速やかに、指針を示すよう申し入れました。

3.災害用アプリについて

宇和島市は単独で、災害対応アプリを作ったのですが、例えば大阪大学を中心としたグループは、未来共生災害救援アプリという「無償のアプリ」を作るといいます。これは、全国何万カ所の避難場所情報を掲載できるとともに、寺社仏閣等々の観光地といわれる地点の位置づけも同様に発信することができ、アプリの中で災害があった後の避難場所に何が不足しているというような情報まで共有できるものだそうです。そんなアプリを全国に無償で提供しようとして動いています。大阪大学と経済界、全国の自治体の一部が協力してつくった無償アプリであります。宇和島市は数百万円の予算を使ってアプリを作っています。機能は別にして、少なくとも金額面で、当市は、当市独自のアプリをつくるために幾らかのお金を支出しているのです。片や無償です。しっかりと、情報収集のアンテナを張って、他の自治体等と共同して、経費を削減しながら、より良いシステムを作れるような企画には乗っていくべきではないでしょうか。

4.固定資産税の課税について

税は、公平・公正が望まれます。国土調査結果に基づく公平・公正な固定資産税の徴収、地積に応じた徴収をして欲しいと要望致しました。

5.債権処理の効率化と専門部署の設置を

既存の滞納市税等の徴収のノウハウを、他の未収金の徴収業務に生かすことを検討してはいかがでしょうか。そのための専門部署を作ってはいかがでしょうか。

(別の機会ですが、支払の遅れている校納金の徴収業務を学校の先生方から専門部署に移してはかがかとの提案をされており、その一環として提案をいたしました。)

6.ガン検診の有効性について

昨今示されているデータ^{※2}では、検診そのものにあまり効果はないというふうな評価が出ています。がん検診を進めるよりも、健康診断の結果に基づいて、生活習慣を見直すとか、食習慣を見直すとかという生活指導に資金を投入していく(投資)方が、健康寿命を延ばすためには有効であるとするのが有力説のようです。

宇和島でも、がん検診に費用を使うよりも、健康診断結果に基づいて、ハイリスクグループを対象にした生活指導に費用をかけるよう方針転換されてはいかがでしょうか。

※2 プリティッシュ・メディカル・ジャーナルの総計18万人のスクーリングの結果による。

7.バンブーバイオマス事業について

宇和島の竹林が500ヘクタールほどあるという答弁を以前いただいたことがあります。

500ヘクタールあれば、ちょうど2メガのバンブーバイオマスの発電所で再生可能な林地規模があるとバンブーバイオマス発電側から評価ができる環境です。

10人を超える直接雇用、そして、竹を切り出して発電所まで持って行って現金化できるわけですから、その間接雇用も含めれば、かなりの地域貢献になると思います。ぜひ、前向きに検討をすすめてください。

8.トキワバイカツツジの保全と活用について

トキワバイカツツジは世界で津島町のある地域にだけ咲いている可憐な、そしてかくわしい香りのする花で五月の連休前後に咲く花ですが、毎年たくさん咲く花ではないようです。

生息地も、現状のままではなかなか後の世代(次の世代)が生まれていないようです。土壌菌に弱いのではなかろうかという分析もなされているのですが、このレッドデータブックにも指定されているトキワバイカツツジをまずは保全すること、そして、宇和島にしかないということで、ぜひ産業に利用する道を開いて、経済を回すものに活用する検討を進めていただきたいと思います。